

## 平成 28 年度 第 1 回 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

■日 時 : 平成 28 年 9 月 28 日 (水) 15:00~17:00

■場 所 : 日田市役所 庁議室

■出席委員 : 15 名中 12 名出席

日隈委員 石橋委員 河津委員 永松委員 諫山委員 篠藤委員  
岩里委員 梅木委員 日野委員 福士委員 海老原委員 大塚委員

### ■次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長あいさつ
4. 議題
  - (1) 総合戦略評価体制と進捗簡易スケジュールについて
  - (2) 総合戦略 平成 27 年度分事業評価について
  - (3) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金 (地方創生先行型) 事業評価について
  - (4) その他
5. 閉会

発言者	主 旨
事務局挨拶 委嘱状交付	<p>ただ今より「第1回日田市まち・ひと・しごと創生戦略審議会」を開催いたします。なお、本日は、日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会設置要綱第6条第5項に基づき、関係課長が出席させていただいておりますので、ご了承ください。</p> <p>会議に先立ち、任期途中で交替されました委員のご紹介をさせていただきます。</p> <p>日田青年会議所理事長 梅木自敬様 日田市子ども・子育て会議委員 日野幸子様 地域おこし協力隊 福士祥子様</p> <p>大変申し訳ありませんが、委嘱状は机の上におかせていただいております。任期は、前委員の残任期間であります、来年8月までとなります。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は、市議会議員の飯田茂男様、日田市森林組合の井上明夫代表理事組合長及び日田商工会議所の高山英彦会頭は所要の為欠席しております。</p> <p>続きまして、会長からごあいさつをいただきます。</p>
会長あいさつ	<p>今こちらで話していたんですが、皆さんの中にもご覧になった方がいるかもしれませんが、NHKの番組で人口減少と社会ということで、東京の豊島区、付随して北海道の夕張市、それから島根でしたかね、非常に歴史上始まって以来のことであるということで番組がありました。昨年、皆さんで議論しながら総合戦略を作りまして、策定されていったわけですけど、やはりこういうような時には、一致団結しながら知恵を絞って、それでも解決できるかどうかという、そういうところだろうと思いますけど、忌憚のない意見交換の場が実現できればと思います。</p> <p>私いつも夏は三週間程必ずヨーロッパの方に行くんですが、びっくりしました。オーストリアは自転車国にするということで、車道の一本を自転車道にして至る所に公共の自転車を置いて、カードを使って1時間は無料。山国で良く自転車国家をするもんだなと。ドイツに行きましたら、自分のパーソナルな車は街では持たないようにするといったことで、JRにあたる駅の側にカーシェアリングの車がずらっとあって、私の友人もカードでドアが開いて、使ってまたそこで車を置くと、お金が自動的に引かれていって。個人が、1人しかいないのに5人乗りの車を走らせるというのは、街の中では危険極まりないし、車のための街になる。そうではなくて人のための街になろうということで、30年間でそうになっていって、日本はどうだと聞かれて、日本でも東京で自転車で走っているというような話をしましたが、やっぱりいろんな面で社会の作り替えというのが起こっているんだなと感じました。これは余談であります。</p> <p>今日は忌憚のない意見交換ができればと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>

事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会設置要綱第5条第2項で、「会長は、会務を総理し、審議会を代表する。」と規定されておりますので、これからの審議の進行は、会長にお願いいたします。会長、よろしくをお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは会議の次第に基づきまして、進行させていただきます。</p> <p>まず、事務局は会議成立の報告をしてください。</p>
事務局	<p>設置要綱によりまして、この審議会は委員の半数以上が出席することとなっております。本日はこの要件を満たしておりますので、本日の会議が成立するということをご報告いたします。</p>
会長	<p>それでは、お手元の本日の議事次第、資料等に基づきまして進行をしたいと思います。</p> <p>まず第1番目の総合戦略評価体制と進捗管理スケジュールについて事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>■資料1-1 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価体制</p> <p>■資料1-2 総合戦略評価スケジュール</p> <p>について説明</p>
会長	<p>それでは、評価体制とスケジュールについてご説明がりましたが、これについてご意見・ご質問がありましたら挙手にてお願いいたします。</p> <p>(特になし)</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは2番目になります、総合戦略の数値目標、KPIについてと進捗状況について説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>■資料2-1 総合戦略数値目標・KPI達成状況</p> <p>■資料2-2 日田市の人口動態</p> <p>について説明</p>
会長	<p>ありがとうございました。それでは、このご報告について皆様からご意見・ご質問をいただきたいと思いますが、なるべく多くの方に発言の機会をと思っておりますので、最初はお一人2つ程度で、もっとある方のところに戻るという形で数を限って進めたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>それではご自由にご質問、ご意見をお願いいたします。</p>
委員	<p>P5ですが、新たな雇用の創出の未達成理由ですが、実践型雇用創造事業就業者の見込みが81名で実際は49名だったということで、そういう事実を述べられたと思いますけど、この事業を継続すればこの雇用が増えていくということを見込んであるということでしょうか。事業が継続すれば雇用は増えていくということでしょうか。</p>
事務局 (商工労政課)	<p>実践型雇用創造事業につきましては、H25からH27までの3年間の事業でございます。H27で終了ということで、最終年度の実績につきまして目標81名に対し</p>

	<p>て49名ということでございます。理由としましては、最終年度は3月に事業を終了しており、6月が最終報告となっておりますので、それ以降に就職した方については実績に反映されていないということが一つ要因としてあります。ご質問に対してはこの事業は平成27年度で終了ということでございます。</p>
委員	<p>最終的には49名よりも多く、この事業を受けた方については雇用につながる見込みだということでしょうか。</p>
事務局 (商工労政課)	<p>その後の追跡調査については、3月で事務局も終了しておりますので、それ以上の見込みもあつたのではないかとということです。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。よろしいですか。 それでは他に、どうぞ。</p>
委員	<p>全体を通してですが、未達成の理由と書かれているんですが、限定的な理由と恒常的な理由で努力されても結果が伴わないことがあるかと思いますが、それはそれでいいとして、例えばP6などは年間生産量で目標を達成している、達成した理由というか原因を聞きたかったなという。こうやったら良いこともできたよというふうにやっていかないと、やれてないことの後悔というか後ろ向きな意見ばかりじゃやって面白くないので、どうやったら達成できたのかなというのをヒントにしたいと思います。これは今後事務局がその方向を出してくれればと思います。</p> <p>P23の人口動態のデータは間違っていないですか？H27の12月以降、人口の減少数と増減が合っていないように思いますが。</p>
事務局	<p>P23の表の説明が不足していましたが、欄外に、大分県の人口推計では～という注意書きを記載しています。大分県の人口推計のデータを用いていますので、国勢調査が実施された時のみ、H27の9月時点で一度数字をシャッフルする、元に戻しています。それ以外の数字は市役所でいえば市民課に届け出た数字を単純に足し算引き算をしています。それをずっと累計しているんですが、国勢調査があればその年の10月1日現在の速報値が出ます。速報値が出た時点で、速報値に強制的に数字を合わせています。そのために、ここに注意書きで書いておりますが、H27年11月分までの人口及び世帯数とは連続しませんという言葉で書いてありますが、そういった数字のからくりがありますので、表として足し算引き算すると合わないというのは事実でございます。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。 1番目のご意見については、今後反映していただければと思います。 他にどうぞ。</p>
委員	<p>P5の新規就農者数、新規林業就業者数が、17名、15名ということになっていますが、就業者という実態は、どういうことが「就業」ということになるのか。 できれば後追いしながら完全に生業としてやっていけるような状況を作り出していくということが、関係課あるいは行政としてのバックアップ体制ができているというのが一番重要だと思うんですが、就いて半年後には辞めたとか、そう</p>

	<p>いった状況の可能性がありながらこの数字というのは入ってきているのかということも考えられますので、どういった実態で数字をあげているのか。</p>
<p>事務局 (農業振興課)</p>	<p>新規就農者数につきましては、県と一緒に なりまして新規就農された方の数字の把握、確認をしております。また、農業生産法人等の農業関係の法人につきましては、新しく雇用された方の名簿など様々な情報をいただきながら数字をあげております。ただし、昨年につきましては、23人から17人に減っておりますが、例年12名程度農業法人等に雇用される方が昨年は6名でございました。委員さんのご意見のとおり、毎年、今年何人採用としておりますが、その方が何人辞めたか、そこまでは全てのデータは持っておりません。新規就農に関しましては、今年の事業の中で農業生産者に対して営農指導事業で相談員が直接農家を訪問しながら指導をしており、指導もしっかりとやっ いていこうとしておりますので、H28から取り組みを開始しているところでございます。</p>
<p>事務局 (林業振興課)</p>	<p>新規林業就業者数につきましては、15人ということですが、内訳につきましては日田市独自の内訳はございませんが、県全体では81人です。その内訳といたしましては、森林組合が39人、森林組合以外の認定林業事業体、素材業者等が34人、その他の市場等が8人というような内訳で、日田市につきましては大体同じような内訳であろうという推計でござい ます。新規就業ということで、その後の追跡については、離職等については把握できておりません。</p>
<p>委員</p>	<p>皆さん方は理解していると思いますが、最終的には新規就農者であったり、後継者がきちんとできる形の体制を取るとい うことがその業種の衰退を止めるということになりますから、その辺りのことを十分頭に入れながら、関係団体であったり、農業でい えば営農指導者等と連絡を取りながらの体制づくりが肝心なところだと思 います。</p>
<p>会長</p>	<p>今、委員の方からありましたが、数字はこうやってあがっている、そして根拠のご説明があつたわけですが、17名、15名という非常に限られた人数で、それぞれがどのような方々で、今後指導したり応援したりという中で、どう変容していくかということが実態的に一番重要であると。従ってそこは数字には出てこないわけですが、そこまで含んだ把握が非常に大切だとい うご指摘だったと思 います。</p>
<p>委員</p>	<p>今のところで、今後の取り組みで書いているのは、農事中間管理機構を利用して規模拡大をする、そして雇用者を増やすということなんですが、私の意見ではそれでは増えないと思 います。大体、TPPの問題が国会で議論されていますけど、先行き不安で農業法人がこれから土地規模・経営規模を拡大していくかどうかとい うと、これが決まらないとできないんですよ。そんなリスクのあることは。だからそこはこれでいくと言われても、これで本当に大丈夫かというふうに私は思 います。委員が言われたように、継続してやっ いていくところが大事だと思 います。それは何かとい うと、やっぱり自分の作ったものが消費者に届くところまでの喜びとか、作ったものが届く、自分が育てたものが喜ばれるという、</p>

	<p>そこをつないでいくところの部分で新規就農が希望を持っていくと思うんですね。だから規模拡大で雇用者を増やすというのは、今まではできたかもしれないが、これはこの方法ではあまり希望を持ってないですよ。</p>
<p>事務局 (農業振興課)</p>	<p>この件に関しましては、昨年の雇用状況の中で農業法人等の中で採用が少なかったということでの、どうやって増やすかということで面積的なもの、規模拡大を行う中で雇用の拡大を図るということで書いております。ただ、委員さんおっしゃいましたように、これとは別に新規就農や青年就農に関しまして、今年度は先程言いましたJAさんに営農相談員を4名採用していただいて、各農家に手厚い指導をしてもらうような営農指導の強化事業、また、農業大学校に就学した場合に、年間6万円の支援を24万円に増やすとか、今まで国の青年就農給付金が親元就農であった場合は支給できないというような問題がございましたので、市単独事業で農業後継者の方が親元で就農した場合は年間60万円の支給を行って農業経営の継続に向けた支援をすとか、そういう新しい事業を平成28年から入れております。そういうことも踏まえながら、少しでも農業後継者が次につながっていくという形で、農業生産法人に勤めるという形ではなくて、自分で農業を継いでしっかり後につないでもらうという形の方向性も進めてまいりたいというところで取り組んでいるところです。</p>
<p>会長</p>	<p>今のご説明というのは、今後の取り組みというところに1行でも、今されているわけですから、それを1行でも加えるということは可能なんですか。</p>
<p>事務局 (農業振興課)</p>	<p>昨年の人員が減少した主な原因が法人の雇用が少なかったということで、この取り組みをあげさせていただきましたが、全体的な市の農業振興、農業後継者を増やす、新規就農者を増やすという事業につきましては、説明させていただきました事業が別にございますので、本来であればここに記入すべきであったと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>他にご質問、ご意見ございますか</p>
<p>委員</p>	<p>P6の農水産物・農水産加工品の生産力・販売力の向上についてですが、KPIで梨の年間輸出量ですが、未達成理由の欄で平成27年、去年の台風被害が記されていますが、そんなに大きな被害ではなかったように感じておりました。被害が大きくて輸出量がこんなに少なかったというのが少し気になりますが。それから反対にわさび、内水面の関係については100%以上の達成度になっております。特にわさびはまだまだそこまでは達しないのではないかと思います、100%以上に達成しているということで、非常に喜ばしいことなんですが、その辺りが少し気にかかりますので、詳しい説明をいただければと思います。</p>
<p>事務局 (農業振興課)</p>	<p>梨の輸出量についてですが、輸出する品種が新高ですが、これは9月の20日から10月の20日くらいまでに収穫するものでございます。ただ、台湾の中秋節、9月の中旬くらいですがその時期に出荷するものについては8月20日前後に収穫をいたします。8月15日に台風が来ておりまして、約40%の落果がみられておりま</p>

	<p>す。そのため輸出の量についても出荷ができなかったと。全体で70%としておりますのは、梨については7月15日から8月の中旬から幸水という品種や次の品種がいろいろございまして、台風前に収穫したものもありますし、梨園については被害がないところもある中で、全体的にいうと70%くらいとなっております。ただ、台湾等に輸出する梨につきましては落果分が大きかったということで、当初の目標に対して実績が伸びなかったということでございます。</p> <p>わさびの年間生産量につきましては、102%ということであげさせていただいておりますが、H26が48t、それに対してH27が49tでしたから102%ですが、一番右側を見ていただきますと、最終的な目標につきましては100tを目指している中で数字でございます。ですからH26に比べて量が増えたということですが、まだまだ量を増やしていかななくてはならないと考えております。</p>
委員	<p>P10の創業者への支援のところで、KPIで開業資金の新規融資件数が50%、女性若者起業支援資金の新規融資件数が40%しかいってないというのは、もうちょっと数字が欲しいような気がします、その辺の問題点といいますか、実情をお伺いしたい。</p>
事務局 (商工労政課)	<p>開業資金については融資要件の緩和を考えております。内容としましては、現在は借入額と同額の自己資金を準備する必要がありますが、これにつきましては特定創業支援を受けられた方の場合は免除ということで考えております。</p> <p>女性若者起業支援資金についても融資要件の緩和を考えておまして、従来は女性または35歳未満の方ということでしたが、H28からは女性または40歳未満の方ということでございます。こういった対策で融資の件数を増やしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>やはり日田市の企業をもっともっと浮揚させるというのが今回の地方創生の大きな問題点であろうと思いますので、意欲のある創業者に対しては積極的に支援をしてあげないと。ここで数字ばかり見てどうだったかというのではなく、具体的な改善策がなければ何もならないと思います。その辺の考えはどうか。</p>
事務局 (商工労政課)	<p>それにつきましては、今年6月から産業振興センター内にビジネスサポートセンターを開設しまして、創業支援や経営改善のサポートを始めております。これにつきましては、月60件ほどの相談がありますので、融資や経営改善、創業支援についても対応していきたいと考えております。</p>
委員	<p>普通の考え方ではなくて、一歩前進して、いかにしてという中で考えないと前には進まないと思いますのでよろしくお願いします。</p>
委員	<p>日田市金融協会を代表して参加させていただいてますが、今のビジネスサポートセンターの活動については、我々市内金融機関も連携させていただいております。内容も非常に充実した取り組みだと思っております。定期的に金融機関とサポートセンターの方と情報交換を行いながら、センターでの相談を金融機関につないでいただいて、実際に開業に結び付けたという事例もこの短い期間に発生し</p>

	<p>ておりますし、毎月定期的にセミナーを開催していただいています。創業の方に対するセミナーであったり、或いは販路を拡大するためにはどういふふうにして取り組んでいくかというようなセミナーであったり、テーマに沿って非常に内容の充実した取り組みがなされていると思いますので、これに関しては市内金融機関も全面的にバックアップさせていただきたいと考えております。</p>
委員	<p>P16ですが、おもてなし事業の推進、観光客目線のわかりやすい案内板の設置等ありますが、達成率については年間入込客数としていますけど、具体的にどうやった対策の中でこういった施策を成し遂げていこうと考えているのか、また、外国人向けの情報発信と受け入れ体制の強化、滞在型外国人向けツアーの推進ということには、旅館であったり、受け入れる施設が必要だと思いますが、そういったところに対する対策は具体的にどうとられているのか伺いたい。</p>
事務局 (観光課)	<p>今までは観光課としては阿蘇方面等の通過型の観光がメインだったと思いますが、それを着地型の観光へしていきたい、特にインバウンド関係、外国人の方も含めて施設整備、ホームページの多言語化等を行っていきたくております。特に日田の代表的な観光資源であります屋形船、これは九州では原鶴と日田にしかございません。この屋形船を隈地区の景観形成に合わせた形でリニューアルしていくような補助制度を設けておまして、徐々にではありますが屋形船のリニューアルで高齢者でも利用しやすいように、また付随しまして旅館の方のおもてなし、独自のおもてなしや料理の充実等を一緒に行っていきたくて考えております。</p>
委員	<p>それを旅館と具体的にどんな話し合いを持って実際に進んでいっているのかというのが一番肝心なことだと思います。それを成すために何をすべきかという部分が今のお話の中ではなかなか見えてこない。ですからこれは来年になれば同じような形のものしか出てこないだろうと予想できるわけですが、もう少し旅館組合であったり女将の会であったり観光協会と具体的に何を組みんで、一つ一つ実績をあげるために何をすべきかということが一番大事なことだと思います。P14も同様ですが、天瀬・大山・奥日田への年間入込客数、スポーツイベント、コンベンション年間誘致数、スポーツイベント年間参加者数であれば、実績が年間4,657人で目標5,000人であれば何らかのちょっとしたイベントを持ってくれば400人くらいはすぐ目標まで達成すると思いますが、日田に合ったスポーツイベントを定着させるためには、ひな祭りマラソン或いはヒルクライムレースが定着しつつあると思いますが、それ以外に何か適したものを探し出すとかということが一番必要ではないかと思います。未達成理由で高塚地蔵尊の1月の入込客数が大幅に減少したためというのは、減少の理由としてはあまりにもお粗末過ぎますよ。もう少し新しい商品を見つけるというのが、今後の業者とか或いは旅館関係者、観光協会と話し合いながら新しい商品を開拓するというような姿勢が今一番必要ではないでしょうか。</p>



事務局 (観光課)	委員のおっしゃるように新しい商品の開発ということで、今年度から奥日田デザイン会議を立ち上げ、その中で三津江地区と大山・天瀬地区を含めた新たな観光資源を見つけようということで、観光協会や地域おこし協力隊の方等も含めて一緒に新たな観光資源を探していこう、今まで見過ごしていた観光資源を再認識して磨き上げて、着地型の観光につなげていこうという取り組みを今年度から実施しております。それに基づいて福岡都市圏とか九州地区内からの誘客を含めて、インバウンドも含めて、奥日田地域、日田地域へ誘客しようという取り組みを進めているところでございます。
委員	辛辣な意見ばかりですが、外国人年間宿泊数が達成度164.93%で最終目標値に迫らんとする勢いで増えていますが、宿泊されているので日田にお金を落としていただいているわけで非常に良い傾向だと思います。インバウンドの数が増加しているというのもあるのですが、滞在者の国別のデータがありましたらお聞きしたいのと、滞在型外国人向けツアーの推進というのはどういう形の取り組みをされているのか教えていただきたい。
事務局 (観光課)	はじめに外国人の年間宿泊者数ですが、H26は50,569人でH25は39,295人と徐々に増えてきております。特に多いのが台湾、韓国の方で約8万人です。日田市も台湾、韓国の旅行社に営業を行っておりますし、ブロガーの招聘をして情報発信をしてもらうというような事業を行っております。 滞在型外国人向けツアーの推進については、ご当地コンダクターを含めて外国人関係のおもてなしがなかなかできていない状況です。ご当地コンダクターに外国語の説明ができる方がいないとか、外国語のパンフレットが準備できていないという状況であります。
委員	滞在型外国人向けツアーというのは、おそらく日田に滞在する期間をそれなりに長くっていただいているスタンスのものを考えられているのだろうと思いますが、それはむしろ奥日田の方がどちらかというところに対応したものを作り出しやすい環境にあるのではないかという気がします。そういう視点も持って取り組まれると、またお金をかけることなく新しい観光資源を作り上げることにつながると思いますので、そういった取り組みを検討されてみてはいかがでしょうかと思います。
委員	私は日田の観光事業は弱いとこれまでも申し上げていますが、本気で日田の観光に取り組む姿勢が見えにくい。最近大分に出張が多くて、JRを使っていますが、夕方JRに乗って湯布院で乗り換えるんですが、湯布院で100人を超えるような外国人が乗ります。前日の夜は別府に泊っている。大分空港に着いて別府に泊って翌日は湯布院に泊る。100人を超す人間が泊っている。日田に半分くらい降りるかと思うとそのまま博多に行ってしまう。博多に泊って翌日は福岡空港から帰られる。毎回大量の観光客を目にしますが、豆田の街並みだとか市の三大イベントであるとか確かにいいとは思いますが、もうひと腰入れて、外国人の年間宿泊者数はトントン拍子に増えておりますが、ほんとにこんな数の外国人が日田に泊っ

	<p>ているのかというのが少し疑問です。</p> <p>旅館組合等も市に助成をねだって、助成金が出れば何か考えますとか、屋形船も数年前に市がかなりの助成をしてリニューアルしたりというのがあったと思いますが、観光地というのはこれから先、そこにある決まったものを提供するだけではなくて、現地に行って驚きと感動が先々の観光開発には大きなものであると。観光は泊るお客さんを捕まえないと、豆田の街歩きをして夜は帰るというのではどうにもなりませんから。日田市の観光は三隈川もあるし亀山公園もあるし咸宜園もあるし、もう少し抜本的に考え直して観光開発をしないと業績はあがらないという指摘を申し上げたい。</p>
委員	<p>P7の家具・装備品製造業製品年間出荷額ですが、H26実績が5,509百万円でH31目標が5,513百万円ということで、目標がこの数字でほんとにいいのか、日田市としては、もりビジョンを作って林業関連産業を拡大させていくということをやっているの、この目標についてはいかがですか。</p>
事務局 (商工労政課)	<p>H27が5,235百万円でH31は5,513百万円の根拠ですが、H25の実績が5,102百万円ということでこれを基に過去の伸び率が1.3%程ありましたので、その伸び率を積み上げて設定したものでございます。</p>
会長	<p>それが目標値でしょうが、委員としてはこれが日田にとっては目玉になっているから、もう少し、例えば伸び率を上にはできないかというご意見だろうと思いますが。だからイエスということではないんですけど、検討の一つとしていただければと思います。</p> <p>これまで活発なご意見をいただいてきましたが、一つが異口同音に出た意見はKPIということで数字が並んでいて、割り算をして何%というのが並んでいるけれども中身が分からないということで、例えば良いこともあったらこれが良かったと、芽がこんなふうに出ているんだというようなもの、それから就農が何人だっているのも内容がいったいどうなのか、例えば数字の根拠はこれというような説明はありましたが、新規就農者17名一人ひとりの内容を知っているんですかという、こういうような背後にある情報についてもう少し知らなければなかなか判断できませんねというのが、異口同音のご意見だったかと思えます。これは昨年度策定をして今年度第一回ということで、しかも厳密なKPIに基づいてきちんとやっていくというのが国のフレームワークでもありますし、我々もきちんとした形で進まなければいけないと思いますが、そこについて少しお考えいただければと思います。</p> <p>他にございますか。</p>
委員	<p>P20のコミュニティバスの年間利用者数であったり、P21の地域おこし協力隊及び集落支援員の人数で達成率という形で出てきているんですが、コミュニティバスの年間利用ということは、人口減社会を克服しみんなで安心して暮らせる地域を創るという意味で非常に周辺部においては交通弱者への対応は大きなことだと思えますので、このコミュニティバスの年間利用者数では絶対測れない部分が</p>

	<p>あるというところで、そこに住んでいる方たちが今のこの体制をどう考えているか、幸せ度というか、そういった部分でしか出てこない部分もありますので、達成率というのはここでは適切ではない。地域おこし協力隊の方たちが地域になじんで、その人が持っている能力を活かしながら地域の中で自立していくという形で捉えた時に、人がたくさん目標どおりに入ってきたからいいというわけでは絶対ないと思うので、担当者がどういった考えの中で本来の目的を達成していくかという部分が基本的にはなくてはならないのではないかと思います。あまり達成率というのはなじまないのではないかと思います。</p>
事務局	<p>トータルの回答となりますが、昨年この総合戦略を策定する際にKPIの設定もご議論いただきましたが、一般的に指標は活動指標と成果指標という言葉があります。活動指標というのが、委員がおっしゃったように何人利用したかというような具体的な実数値になります。成果指標というのはそれをしたことによって満足度的に何人満足するかと。一つの例で言うと、一つのことを皆さんに知ってもらうために説明会を開きますと、説明会を10回開きますという10回が活動指標で、それを知ってもらうのが目的ですので、知ってもらった数の割合とか知ってもらった方の数というのが成果指標となります。KPI設定については基本的に全て成果指標、委員さんがおっしゃったように何人の方がそれで満足しているのかというような成果指標にこだわりを持って数値目標の項目を設定してきましたが、実際に今お話にありましたコミュニティ交通、公共交通の点で、正直言ってなかなか何をもって成果指標とするかという項目が出しづらかったということで、コミュニティバスの利用者数ということで、実際何人使ったかという活動指標という形で整理をさせていただいております。また、併せまして集落支援員にしても地域おこし協力隊にしても、本来ならば地域おこし協力隊や集落支援員が入ったことによってその地域がどう良くなったか、そういった成果で測りたかったんですが成果指標の項目が見つからなかったというのが現実の話で、進捗管理スケジュールの説明で申し上げましたが、今後も総合戦略の見直しを図っていく考えですので、その中で成果指標にこだわるということで整理をさせていただきたいと思っております。</p>
会長	<p>今、背景にあるものですか、内容についてということで、もうひとつが、指標でいうと数字というのは定量的な結果なんですね。それに対して定性的なという意味で、例えば地域おこし協力隊の方がいる、一人いる、何をやったというのは外形的、定量的なものです。それに対して、その人が地域に溶け込んだ、このおばあちゃんと知り合いになって嬉しかった、そんな気づきがあった、これは定性的な調査なんですね。社会調査としては、ストーリーの中に出てくるものなんです。従ってこれを全部やるかどうかは別にして、先ほど成功の芽はどこにあったのかとかというご感想を聞くと、そういうようなものにもリンクしてくると思います。ただそこはあまり固く考えず、意見としてはそういうような形だったんではないかと思います。</p>

	<p>私の方からもう一点意見として述べたいことは、先ほど就農という話があった時に、法人に就職したというような形で語られたり、或いはジョブカフェのところで就職困難者とかいう方がそこに行って、それで時間を取ってしまったという記述がありました。それから不登校の問題で学校に行けなくなっている子が低年齢化している、等々の話があるのは非常に重要なところであります。というのは働くというのは朝8時から働く人のイメージを持って、そこにこの人が就労できませんという、それが就職の斡旋だと思ったら、いろんな人がいるわけで、障がいを持たれた方もそうですし、意欲が半歩ないとかそういう方もいるわけで、グレーゾーンという存在をどういうふうに考えるか、これは福祉の対象者です。こちらは完璧に働く人がいて、求職しているんだけど、求人とのマッチングをするというこの前提になっているものが、非常に確立した古いイメージなんです。実際学校の問題もそうなんです、グレーゾーンなんですね。そのグレーゾーンのものをどう把握するか。</p> <p>就農についていうと例えば半農半Xのような形で広く言われている形で自分の家で野菜を作る、若干は売る、別な仕事を持っている、こういう状態のものは就農なのかどうなのか。そういう小さな工夫をいくつか組み合わせながら命を支えるみたいなものが村々で起こっていると、こういうような就業状態をどう考えるのかとか、グレーゾーンの問題について一度ご検討をいただくといいなと思います。私は特に学校関係にいるものですから、不登校だとか学校を卒業した後に就職できるかどうか、こちらかこちらかとならないケースが非常に多いです。ある年齢層、どこの大学でもそうですが2割くらいいるんですね。そういう人々に対してのジョブとのマッチングをどうするか。そういうことをしないと若者の2割層でそれが出現しているというデータがありながら、難しいということを含めて今後お考えいただければと思います。</p> <p>第一回目で数字を並べて難しいですよ。大体共通した意見がありましたから、それを今後は活かしながら我々がチェックをしていくという、評価をしていくという機能を果たしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次の地方創生先行型交付金事業実施結果報告について事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>■資料3 地方創生先行型交付金事業実施結果報告 について説明</p>
会長	<p>それでは今の説明に対してご意見、ご質問がありましたらどうぞ。</p>
委員	<p>P2のNo.7の求職者資格取得支援事業ですが、今後の方針の理由で、H27新規事業で周知が不足していたと思われる、何か根拠があるんですか。周知していなかったから利用されなかったという根拠があるんでしょうか。</p>
事務局 (商工労政課)	<p>求職者関係ですから例えばホームページとかフェイスブックだとかいろんな媒体を活用して周知すべきだったと考えております。</p>

委員	ではH28年度は増えているんですか。
事務局 (商工労政課)	H28年度はまだ状況は分かりませんが、周知を心がけてやっております。
委員	内容としてどうなのかというところ、受講料の1/2とか、上限2万円とか、内容とかそういうものがニーズに合っているのかどうなのかということもあると思うんですよね。それも考えずに周知不足と言ってしまうと簡単だけど、そこが何もなければ、ほんとは中身の問題でニーズに合っていなかったかもしれませんよね。そうすると今後の方針ががらりと変わるんですが。
事務局 (商工労政課)	金額的には2万円ということで設定しております、見合っていると思います。件数的には今のところは達成しておりませんので周知することを先にやっていきたいと思っています。
委員	今の件で受講した方のアンケート等を行いましたか？どういうところが良かったとか役にたったとか、それをやると事業の内容に対する満足度とかの情報を得られると思いますが。
事務局 (商工労政課)	アンケートはやっておりませんので、把握できておりません。
会長	そうしないときちんとした説明になってこないということですね。他にいかがでしょう。
委員	P3のNo.10キャッシュレス環境整備事業で地方創生に効果があったとしているんですが、外部有識者からの評価は有効とは言えないと、私も有効とは言えないと思います。だって5,000円以上の品物でないとこれを使えないという話で、豆田なんかも含めて観光協会なんかともキャッシュレスの話の聞いたりしますと、これをやる効果はないという方が正しいのではないかと。
事務局 (商工労政課)	現在非常に利用率が低いということで、説明がありましたとおり若い人が非常に少なく今現在こういう状況ですけど、今後の方針ということでバスへの営業の強化ということでキャンペーンをやったり、産業振興センターへの入場者を増やして利用を上げるという取り組みを行っているところです。
委員	P3のNo.9日田市アンテナショップ大丸福岡天神店運営委託事業で、今後の方針の理由でアンテナショップをブランド戦略の拠点として活用するというふうに書いてありますが、「ブランド戦略」というのはどういった戦略でしょうか。
事務局 (商工労政課)	情報発信ということになると思います。スペース的にもあまり広くありませんし、日田のふるさと納税や観光、イベント等いろんなことを発信する拠点ということで考えております。
委員	情報発信がブランド戦略なんですか。
委員	ブランドというのは「日田ブランド」という意味で、要するに日田市というものを大消費地である博多で売り込もうという意味でのブランド戦略です。取り立

	<p>てていわゆるブランドのようにより価値が高いものですよとか、そういうことを売り込むという趣旨ではありません。日田市にとっては最も大事なお得意先がいる所ですので、そこで日田市というものをより遡及していこうという意味での戦略です。</p>
委員	<p>日田市を売り込むということですか。日田の商品や農産物を出しているから日田のブランドとってるとのことですか。</p>
委員	<p>例えば野菜、これは日田ですよと、日田はあそこですねと、ここには温泉がありますと、そういう意味で日田市のイメージを高めていこうと、日田市というものを知っていただくというものです。</p>
委員	<p>そういう意味で、委員が言われるブランドと担当が言われるブランドを一致させておかないと、回答がおかしなことになってしまう</p>
委員	<p>おっしゃる通り、そういう事業をやっていく上で、目的をもう少し突き詰めていくという作業も必要かと思っておりますのでやっていきたいと思っております。</p>
会長	<p>ずっと意見をうかがってきたわけですけど、この委員会では外部の有識者の評価ということでそれぞれありまして、これは先行事業としてやったんだけど効果がまったく無かったんじゃないかと、効果の度合いはいろいろあるかと思っておりますが、これを国に提出する時に「効果があった」「効果が無かった」という択一型の報告になるそうです。そこでこれは効果が無かったという事について意見がございましたらご発言いただきたいと思っております。いかがでしょうか、先ほど一つ意見はありましたが。</p>
委員	<p>No.10のキャッシュレス環境整備事業ですが、確かに現状利用する人は少ないということで、ただ利用する方にとっては利用できる環境を整備していくということは、これからたくさんお客さんに来ていただくという面からすれば、環境を整えるという点で決して無駄な事ではないと思っております。効果が無かったとばっさり切ってしまうのは私としては適当ではないと思っております。</p>
会長	<p>今、キャッシュレス環境整備ということで異なる発言があるわけですが、いかがですか。</p>
委員	<p>金額が目標に達していないということを書かれていますが、商品の揃え方をもう少し考えれば、販売できるような商品を、気に入られる商品を考えればと思っております。</p>
会長	<p>そういう意味では環境整備をしたというような意味においては将来についての効果があったという趣旨のご発言ですね。</p>
事務局	<p>一点ご説明を申し上げます。この外部有識者の評価の欄で「総合戦略のKPI達成に有効であったかどうか」というのをこの審議会でご判断いただくというのが本日の会議の一つの目的です。このキャッシュレス環境整備事業のKPIというのはここに記載しています①、②のクレジット決済の販売額、免税の販売額ですが、総合戦略のKPIというのは観光入込客数とか外国人の宿泊者数という、いわゆる</p>

	<p>戦略に載っているKPIに対してこの事業が有効であったかどうかの判断がこの欄になりますので、ご意見がありましたように事業のKPIは正直言って全く達成していないのは事実です。ただ、この事業をやったことによって、今後の方向性に書いているような事を整備して観光の入込客数につなげていく、外国人の宿泊者数を増加させるというのが総合戦略のKPIになっていますので、そういうところに寄与する事業であったかどうかでここのご判断をいただければと思います。</p>
会長	<p>今事務局の方からご説明があったので、そういう意味でのここの評価ですね。ただしその次に、意見という欄がありますので本事業におけるKPIというのを参考にしながら総合戦略におけるKPIという評価と、意見としてこういうようなことを、今後もっと力を入れていくというような意見は今いろんな形で出ておりますので、そういった表記になるということですね。</p> <p>いかがでしょうか、そうしましたら先ほど、半年ぐらいこれやって目標があってこの実績ということでここに出ている数字というのはあるんですけど、あくまでもこれは先行ということで、これから4年間、5年間のスパンの中で一応の意味はあったと、環境整備を含めてですね、ただし項目についてはこのような意見が出されたというような形でこの審議会としての評価にできればと思いますがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>現場の状況をほんとに聞いているのかなと思うんですね。豆田にしても今も相当観光客は来ているけれども、単価は少ないと言っているんですよ。外国人の方は物を見てもあまり買わないと。日本の電化製品だとかいうのはがんがん買っているんですよ。でも地元のお土産物とか食べ物とか、それはシビア、というような現場の声ですよ。いろいろ言ったってキャッシュレス環境整備事業、これは失敗。導入費用の1/3はその店に負担してもらう、その1/3まで負担してもらってこのキャッシュレスをこれから進めていくという話は、現場の声をもうちょっと聞いて。全体のインバウンドのKPIの話はあると思いますが、ただこれに関してはもうちょっと現場の声を聞いてした方がいいと思う。</p>
事務局	<p>この事業については、地方創生先行型の交付金をいただいた事業であって、平成27年度単年度のみの事業です。単年度にこういったシステムを入れ込んだという事業であって、平成28年度以降にまだこれをどんどん拡大するとかいう話ではありません。交付金を使った事業に対して評価をしていただくというのが本日の会議の目的です。</p>
委員	<p>失敗に学んで次に進んでいった方がいい。失敗ははっきり認めた方がいい。</p>
会長	<p>今意見が少し分かれているんですけど、他の委員の方いかがですか。一つは単年度でこういう先行の事業をやったんだけど、KPIとの関係で言っても失敗ではないか。戦略としてのKPIでも失敗ではないかという意見と、これは単年度事業でこういう支援をいただいて設置をしたということで、設置をしたということはインバウンドだとかを含めた意味で設置したという環境整備においてはいいん</p>

	<p>じゃないかという、二つの意見が分かれていると思います。</p> <p>他の委員の方いかがですか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>これは事業を実施して単年度の結果がここに出ているわけですね。ここで先ほど4年間或いは5年間の総合戦略のKPIとのリンクにおいてこの設置としたものがどのような効果があるか、実は論証しようがないわけです。まだ起こってませんから。私は環境整備として意味があったと思う、いやこれは設置したんだけど意味が絶対ないだろうというのは未来予測に対する予想の問題ですので、実は証明しようがないんです。</p> <p>それで、一応先ほど2名の方のご発言もありましたのでこれについては審議会としては希望的なものも含めて、総合戦略のKPIについては一つの基盤足り得ると、ただし、この実績を見ると継続しないまでも利用の仕方だとかもっと現場ときちんと打ち合わせながら、これが活用できるようなことを相当しないと希望だけ言ったってまずは難しいのではないかと、厳しい意見が出たと、というような形の意見の表記というような形でできればと思いますがいかがでしょう。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、この議題について審議が終わったところです。これで議題に上がっているものは全て終わったということで、事務局の方へお返しをしたいと思います。</p>
事務局	<p>■今後のスケジュールについて再確認</p>
会長	<p>本日の審議会の中では、数字を追いかけるだけでは評価ができないということだったと思います。その内容について聞きたいとか、内容の性質についてどう考えているんだろうというような意見が異口同音に真剣な意見として出たと思いますから、そこのところはくれぐれもご配慮いただいて次の会議に活かされるようにまとめとしてお話したいと思います。</p>